

グローバル・メタバース株式ファンド

運用報告書（全体版）

第1期（決算日 2023年1月20日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

「グローバル・メタバース株式ファンド」は、2023年1月20日に第1期の決算を行ないましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2022年3月31日から2032年1月20日までです。	
運用方針	主として、「グローバル・メタバース株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要運用対象	グローバル・メタバース株式ファンド	「グローバル・メタバース株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローバル・メタバース株式マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所上場株式（預託証券を含みます。）を主要投資対象とします。
組入制限	グローバル・メタバース株式ファンド	株式への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	グローバル・メタバース株式マザーファンド	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

<645061>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			FactSet Metaverse Industries Index (配当込み、円ベース)		株式組入比率	純資産額		
	(分配落)	税込 分	み 配 金	期 騰 落	中 率			期 騰 落	中 率
(設定日)	円		円		%		%	百万円	
2022年3月31日	10,000		—		—	100.00	—	3,229	
1期(2023年1月20日)	6,984		0		△30.2	81.78	△18.2	97.0	4,343

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) 「FactSet Metaverse Industries Index」は、ファクトセット社が開発した世界のデジタル環境の創造と実現を手掛ける企業の株式で構成された指数です。なお、設定時を100として2023年1月20日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準価額		FactSet Metaverse Industries Index (配当込み、円ベース)		株式組入比率	
	騰落率	騰落率	(参考指数)	騰落率		
(設定日)	円		%		%	
2022年3月31日	10,000		—	100.00	—	
4月末	8,455		△15.5	87.34	△12.7	96.8
5月末	7,991		△20.1	88.40	△11.6	97.3
6月末	7,693		△23.1	88.14	△11.9	96.8
7月末	8,159		△18.4	89.92	△10.1	94.9
8月末	8,141		△18.6	90.28	△9.7	97.0
9月末	7,416		△25.8	80.88	△19.1	95.8
10月末	7,963		△20.4	80.07	△19.9	97.0
11月末	7,274		△27.3	81.71	△18.3	96.7
12月末	6,652		△33.5	76.39	△23.6	96.1
(期 末)						
2023年1月20日	6,984		△30.2	81.78	△18.2	97.0

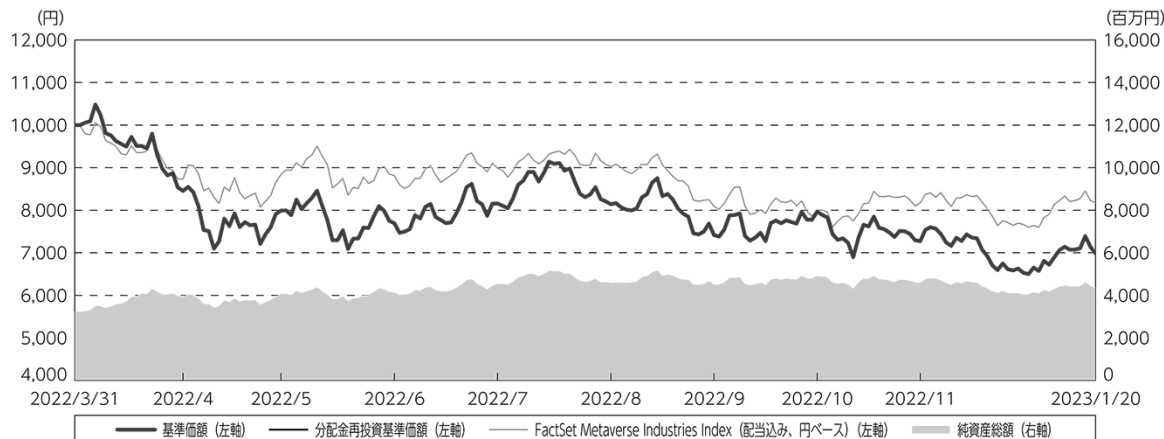
(注) 騰落率は設定日比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

(2022年3月31日～2023年1月20日)

期中の基準価額等の推移



設定日：10,000円

期 末：6,984円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 30.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) FactSet Metaverse Industries Index (配当込み、円ベース)は、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) FactSet Metaverse Industries Index (配当込み、円ベース)は当ファンドの参考指数です。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されている、メタバースに関連するビジネスを行なう企業の株式に実質的に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行っております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・米国金利の上昇一服や過度な利上げ見通しの後退などから、主要株式市場が反発したこと。
- ・米国インフレのピークアウト期待や米国の利上げペースの減速期待が浮上したことや、中国の新型コロナウイルスの規制緩和などを受けてセンチメントが好転し、株式市場が反発したこと。
- ・米国の積極的な利上げ姿勢や世界的な金利上昇などを背景にアメリカドルや主要通貨に対して円安が進んだこと。

<値下がり要因>

- ・インフレ高進と各国中央銀行の利上げ姿勢などから景気悪化懸念が拡がり、主要株式市場が大幅に下落したこと。
- ・大幅な利上げの長期化観測や景気減速懸念、世界的な金利上昇などが悪材料となり、主要株式市場が再び2022年の年初来安値を更新する下落となったこと（2022年8月中旬～9月下旬）。

投資環境

(株式市況)

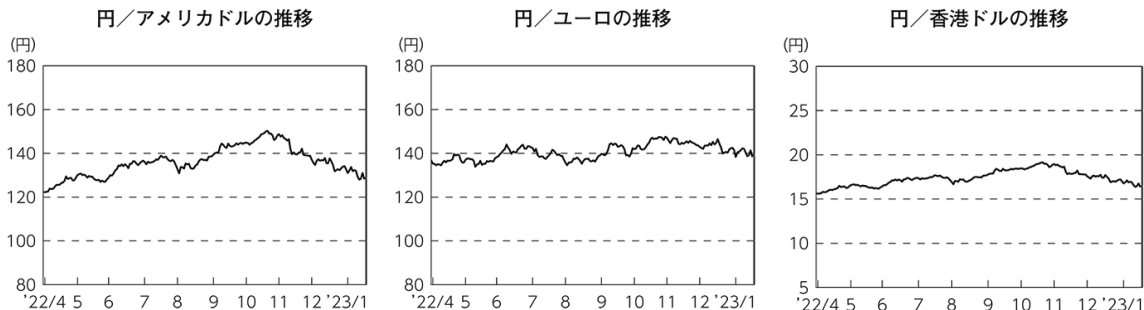
世界の主要株式市場は、期間の初めと比べて下落しました。

期間の初めから2022年6月下旬にかけては、米国消費者物価指数（CPI）の伸び率加速を受けてインフレ高進への警戒感と大幅な利上げ観測が拡がるなかで、米国連邦準備制度理事会（FRB）が利上げを決定し、各国中央銀行も利上げに追随したことで景気悪化懸念が拡がり、主要株式市場は年初来安値をつける大幅な下落となりました。その後7月からは、米国金利の上昇一服や堅調な企業決算などを下支えにセンチメントが好転して市場は反発しました。インフレ圧力が警戒されつつも、米国の2022年4～6月期実質国内総生産（GDP）成長率（速報値）が前期比マイナスとなりテクニカル・リセッション入り（2四半期連続のマイナス成長）が意識されたことなどから過度な利上げ見通しが薄れ、米国株式を中心に8月中旬まで反発基調が続きました。しかしその後は、欧州を中心とするインフレ率上昇や、各国中央銀行のタカ派（インフレ抑制的）的な姿勢、大幅な利上げの長期化観測などから市場は再び下落に転じました。中国四川省などのロックダウン（都市封鎖）入りや中国の景気減速懸念、インフレピークアウト期待の剥落、アメリカドル高の進行、世界的な金利上昇などが悪材料となり、主要株式市場は下げ足を速める展開となりました。10月から期間末にかけては、前月までの下げを経た自律反発や、英国の政治・財政政策を巡る不透明感の解消、米国の利上げペース減速観測の浮上などから世界的にリスクセンチメントが改善したことに加えて、中国のゼロコロナ政策の緩和や米中対立懸念の後退などが追い風となり、米国市場を中心に反発基調となりました。ただし、期間中の下げを埋めるには至らず、主要株式市場は下落して期間末を迎えました。

為替市場は米国の積極的な利上げ姿勢や世界的な金利上昇を織り込み、期間中にアメリカドルや主要通貨に対して高進した円安による押し上げ効果から、円ベース・リターンでは、株式市場の下落幅は限定的となりました。

(為替市況)

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。



当ファンドのポートフォリオ

(当ファンド)

当ファンドは、「グローバル・メタバース株式マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

(グローバル・メタバース株式マザーファンド)

当ファンドの設定以来の基準価額は、株式市場全般が下落し、特にグロース銘柄に大きな打撃が及ぶなか、下落しました。

上位保有銘柄の1つであるユニティ・ソフトウェア（ソフトウェア・サービス）が、大きくマイナスに影響しました。同社は、携帯電話、タブレット、PC、コンソール、拡張版およびバーチャルリアリティ（仮想現実）デバイス向けに、2Dおよび3Dコンテンツをリアルタイムで作成、実行し、収益化するためのソフトウェアソリューションを開発しており、様々な産業向けに運用するプラットフォームを展開しています。

期間中、当ファンドではボラティリティ（変動性）が高まった局面で、Fastly（ソフトウェア・サービス）の保有を解消し、確信度の最も高い銘柄群の積み増しを行ないました。また、下記の銘柄を新たに組み入れました。

クラウドサービスにより様々なコミュニケーション製品を提供するトウイリオ（ソフトウェア・サービス）は、API（アプリケーションプログラミングインターフェイス）の使い勝手がよく、コンピュータプログラムによる音声通話やテキストメッセージ送信を容易に実現できます。当ファンドでは、IP通信およびプログラマティック・コミュニケーション（データに基づいてターゲットとなる潜在顧客層などにリアルタイムでアプローチする技術）の分野において、圧倒的に他社をリードしていると考えています。コミュニケーションはメタバース体験の重要な面になるとみられることから、メタバースでのコミュニケーションを支えていく存在となっています。

ドラフトキングス（消費者サービス）は、米国やカナダでプロスポーツ関連の消費者向けエンターテインメントのデジタル化においてリードしており、消費者向けエンターテインメントのオフラインからオンラインへの移行を促進しているとみています。

クラウド上での利用を前提とした企業のエンドポイント・セキュリティ（ネットワークに接続されている末端の機器をサイバー攻撃から守るためのセキュリティ対策）を提供するリーディング企業のクラウドストライク・ホールディングス（ソフトウェア・サービス）については、サイバーセキュリティ投資が引き続き堅調であることから、当ファンドでは今後も市場シェアを獲得していくと考えています。加えて、プラットフォームの再編の動向も追い風になると考えています。

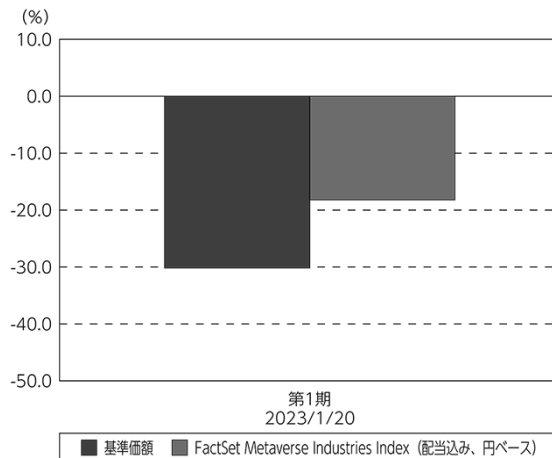
MYNARIC AGNAMENS AKTIEN 0 N（資本財）については、市場全体のボラティリティや、当ファンドによる今後5年の年平均成長率予想と比較した足元の株価動向を勘案して組み入れました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) FactSet Metaverse Industries Index（配当込み、円ベース）は当ファンドの参考指数です。

分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第1期
	2022年3月31日～ 2023年1月20日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「グローバル・メタバース株式マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

(グローバル・メタバース株式マザーファンド)

メタバースとは、高い双方向性を持ったオンライン体験を世界中の人々に提供するための、新しいテクノロジーの集合体であると考えています。AR（拡張現実）、VR（仮想現実）、Web3.0、次世代ハードウェアといった単一の技術ではなく、これらの技術が融合することによって実現される次世代のインターネットこそがメタバースであり、これが新たな消費者向けのオンライン体験の波を作り出ししていくと考えています。

人々がより多くの時間をオンライン上で過ごすようになるにしたがって、オフラインでの消費は今後10年以内に頭打ちとなる可能性があると考えています。AR／VRや次世代のハードウェア、インフラによる没入型の体験、そしてブロックチェーンによるデジタルオーナーシップ（デジタル上の所有権）の実現により、消費者はデジタル資産の価値を徐々に評価するようになり、最終的には現実の資産と同等以上とみなすようになると考えています。当ファンドでは、オンライン消費額が2030年までに12兆アメリカドル超にまで拡大する可能性があると考えています。

メタバースは決して短期的な投資アイデアではありません。現在、メタバースは初期段階にあり、関連技術のイノベーションが進み始めたところですが、初期の活用事例はデジタル・エンターテインメントを中心に展開されると考えています。そして時間の経過とともに規制や法律がデジタルオーナーシップに追いつき、バーチャル世界の領域が、デジタルツイン（仮想空間に現実空間と同じ環境を再現する技術）、AI（人工知能）／機械学習やシミュレーション、労働のトレーニングと能力開発などに応用され、ビジネスでの活用事例が拡大するとみられます。

主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されている、メタバースに関連するビジネスを行なう企業の株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年 3 月31日～2023年 1 月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	116	1.459	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(57)	(0.714)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(57)	(0.714)	運用報告書など各種書類の送付、口内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.031)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	6	0.078	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(6)	(0.078)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	2	0.026	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	(2)	(0.026)	
(d) そ の 他 費 用	10	0.119	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(5)	(0.062)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	(4)	(0.054)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	134	1.682	
期中の平均基準価額は、7,974円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

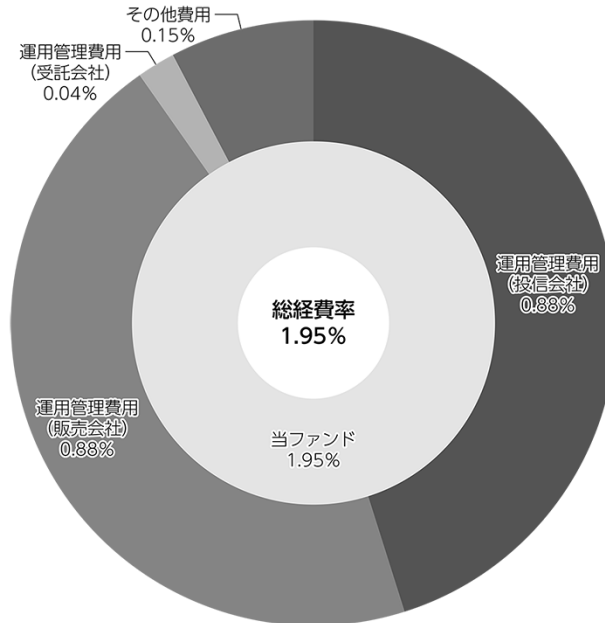
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.95%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2022年3月31日～2023年1月20日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
グローバル・メタバース株式マザーファンド	6,389,644 千口	5,940,318 千円	348,883 千口	276,236 千円

○株式売買比率

(2022年3月31日～2023年1月20日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期	
	グローバル・メタバース株式マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	8,655,241千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	4,226,769千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	2.04	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末(決算日の属する月については決算日)の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2022年3月31日～2023年1月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2022年3月31日～2023年1月20日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2022年3月31日～2023年1月20日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2023年1月20日現在)

親投資信託残高

銘	柄	当 期 末	
		口 数	評 価 額
		千口	千円
グローバル・メタバース株式マザーファンド		6,040,760	4,233,364

(注) 親投資信託の2023年1月20日現在の受益権総口数は、6,040,760千口です。

○投資信託財産の構成

(2023年1月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
グローバル・メタバース株式マザーファンド	4,233,364	96.6
コール・ローン等、その他	147,470	3.4
投資信託財産総額	4,380,834	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) グローバル・メタバース株式マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(3,751,670千円)の投資信託財産総額(4,249,268千円)に対する比率は88.3%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1アメリカドル=128.71円、1ユーロ=139.37円、1香港ドル=16.43円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年1月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	4,380,834,317
コール・ローン等	131,325,302
グローバル・メタバース株式マザーファンド(評価額)	4,233,364,980
未収入金	16,144,035
(B) 負債	37,158,417
未払解約金	9,633,473
未払信託報酬	25,113,887
未払利息	33
その他未払費用	2,411,024
(C) 純資産総額(A-B)	4,343,675,900
元本	6,219,566,275
次期繰越損益金	△1,875,890,375
(D) 受益権総口数	6,219,566,275口
1万口当たり基準価額(C/D)	6,984円

(注) 当ファンドの設定時元本額は3,229,871,801円、期中追加設定元本額は3,543,861,300円、期中一部解約元本額は554,166,826円です。

(注) 1口当たり純資産額は0.6984円です。

(注) 2023年1月20日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は1,875,890,375円です。

○損益の状況 (2022年3月31日～2023年1月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 36,986
受取利息	121
支払利息	△ 37,107
(B) 有価証券売買損益	△1,338,186,943
売買益	87,296,340
売買損	△1,425,483,283
(C) 信託報酬等	△ 66,043,773
(D) 当期損益金(A+B+C)	△1,404,267,702
(E) 追加信託差損益金	△ 471,622,673
(配当等相当額)	(△ 3,440)
(売買損益相当額)	(△ 471,619,233)
(F) 計(D+E)	△1,875,890,375
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	△1,875,890,375
追加信託差損益金	△ 471,622,673
(配当等相当額)	(733,937)
(売買損益相当額)	(△ 472,356,610)
繰越損益金	△1,404,267,702

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 親投資信託の信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要した費用のうち、2022年3月31日～2023年1月20日の期間に当ファンドが負担した費用は20,590,428円です。

(注) 分配金の計算過程(2022年3月31日～2023年1月20日)は以下の通りです。

項 目	2022年3月31日～ 2023年1月20日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	733,937円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	0円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	733,937円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	1円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金 (税込み)	0円
------------------	----

○お知らせ

約款変更について

2022年3月31日から2023年1月20日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

グローバル・メタバース株式マザーファンド

運用報告書

第1期（決算日 2023年1月20日）
（2022年3月31日～2023年1月20日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2022年3月31日から原則無期限です。
運用方針	主として、日本を含む世界の金融商品取引所上場株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	日本を含む世界の金融商品取引所上場株式（預託証券を含みます。）を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

ファンド概要

主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されている、メタバースに関連するビジネスを行なう企業の株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
株式の銘柄選定にあたっては、各企業の成長性、収益性、財務健全性、流動性などを勘案して行ないます。
株式の組入比率は、高位を維持することを基本とします。
外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行ないません。
ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

日興アセットマネジメント

<639175>

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		FactSet Metaverse Industries Index (配当込み、円ベース) (参考指数)		株組入比率	純資産額
	期騰落	中率	期騰落	中率		
(設定日)	円	%		%	%	百万円
2022年3月31日	10,000	—	100.00	—	—	3,149
1期(2023年1月20日)	7,008	△29.9	81.78	△18.2	99.6	4,233

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) 「FactSet Metaverse Industries Index」は、ファクトセット社が開発した世界のデジタル環境の創造と実現を手掛ける企業の株式で構成された指数です。なお、設定時を100として2023年1月20日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		FactSet Metaverse Industries Index (配当込み、円ベース) (参考指数)		株組入比率
	騰落	率	騰落	率	
(設定日)	円	%		%	%
2022年3月31日	10,000	—	100.00	—	—
4月末	8,429	△15.7	87.34	△12.7	99.4
5月末	7,963	△20.4	88.40	△11.6	99.6
6月末	7,664	△23.4	88.14	△11.9	99.9
7月末	8,158	△18.4	89.92	△10.1	99.9
8月末	8,151	△18.5	90.28	△9.7	100.4
9月末	7,413	△25.9	80.88	△19.1	98.9
10月末	7,988	△20.1	80.07	△19.9	99.6
11月末	7,288	△27.1	81.71	△18.3	99.7
12月末	6,660	△33.4	76.39	△23.6	99.3
(期末)					
2023年1月20日	7,008	△29.9	81.78	△18.2	99.6

(注) 騰落率は設定日比です。

○運用経過

(2022年3月31日～2023年1月20日)

基準価額の推移

設定時10,000円の基準価額は、期間末に7,008円となり、騰落率は△29.9%となりました。

基準価額の変動要因

期間中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

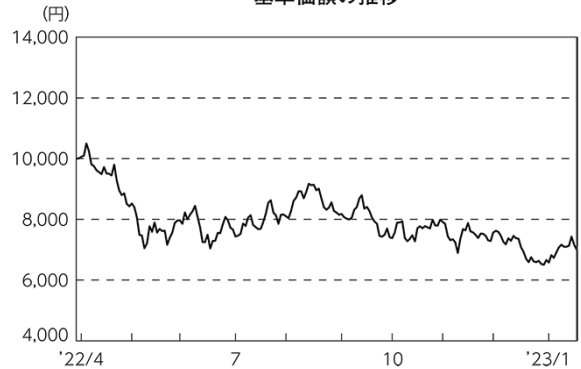
<値上がり要因>

- ・米国金利の上昇一服や過度な利上げ見通しの後退などから、主要株式市場が反発したこと。
- ・米国インフレのピークアウト期待や米国の利上げペースの減速期待が浮上したことや、中国の新型コロナウイルスの規制緩和などを受けてセンチメントが好転し、株式市場が反発したこと。
- ・米国の積極的な利上げ姿勢や世界的な金利上昇などを背景にアメリカドルや主要通貨に対して円安が進んだこと。

<値下がり要因>

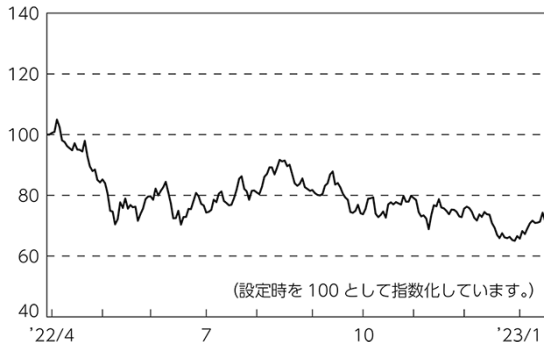
- ・インフレ高進と各国中央銀行の利上げ姿勢などから景気悪化懸念が拡がり、主要株式市場が大幅に下落したこと。
- ・大幅な利上げの長期化観測や景気減速懸念、世界的な金利上昇などが悪材料となり、主要株式市場が再び2022年の年初来安値を更新する下落となったこと（2022年8月中旬～9月下旬）。

基準価額の推移

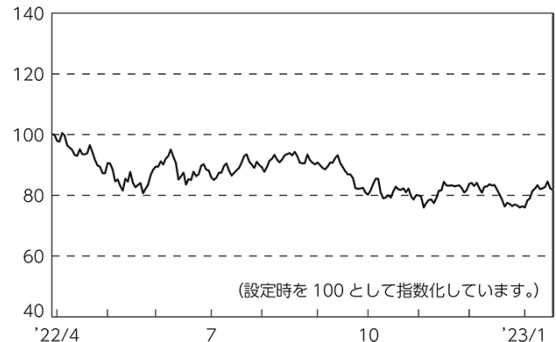


設定時	期中高値	期中安値	期 末
2022/03/31	2022/04/05	2022/12/29	2023/01/20
10,000円	10,497円	6,504円	7,008円

基準価額（指数化）の推移



FactSet Metaverse Industries Index（配当込み、円ベース）（指数化）の推移



(株式市況)

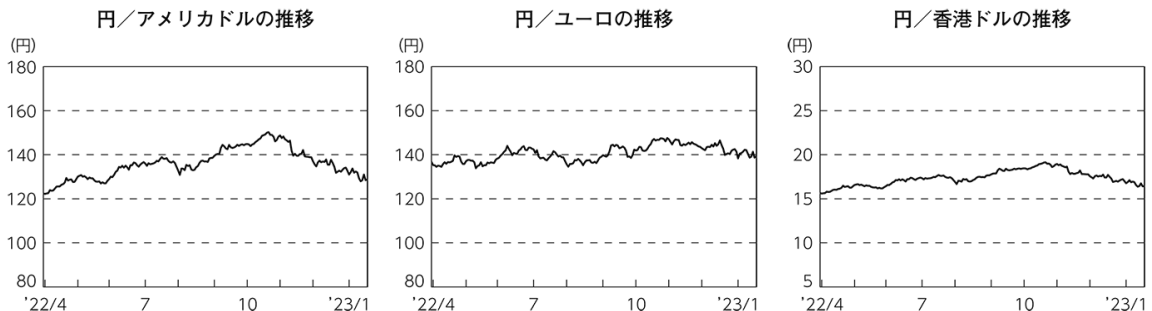
世界の主要株式市場は、期間の初めと比べて下落しました。

期間の初めから2022年6月下旬にかけては、米国消費者物価指数（CPI）の伸び率加速を受けてインフレ高進への警戒感と大幅な利上げ観測が広がるなかで、米国連邦準備制度理事会（FRB）が利上げを決定し、各国中央銀行も利上げに追随したことで景気悪化懸念が広がり、主要株式市場は年初来安値をつける大幅な下落となりました。その後7月からは、米国金利の上昇一服や堅調な企業決算などを下支えにセンチメントが好転して市場は反発しました。インフレ圧力が警戒されつつも、米国の2022年4-6月期実質国内総生産（GDP）成長率（速報値）が前期比マイナスとなりテクニカル・リセッション入り（2四半期連続のマイナス成長）が意識されたことなどから過度な利上げ見通しが薄れ、米国株式を中心に8月中旬まで反発基調が続きました。しかしその後は、欧州を中心とするインフレ率上昇や、各国中央銀行のタカ派（インフレ抑制的）的な姿勢、大幅な利上げの長期化観測などから市場は再び下落に転じました。中国四川省などのロックダウン（都市封鎖）入りや中国の景気減速懸念、インフレピークアウト期待の剥落、アメリカドル高の進行、世界的な金利上昇などが悪材料となり、主要株式市場は下げ足を速める展開となりました。10月から期間末にかけては、前月までの下げを経た自律反発や、英国の政治・財政政策を巡る不透明感の解消、米国の利上げペース減速観測の浮上などから世界的にリスクセンチメントが改善したことに加えて、中国のゼロコロナ政策の緩和や米中対立懸念の後退などが追い風となり、米国市場を中心に反発基調となりました。ただし、期間中の下げを埋めるには至らず、主要株式市場は下落して期間末を迎えました。

為替市場は米国の積極的な利上げ姿勢や世界的な金利上昇を織り込み、期間中にアメリカドルや主要通貨に対して高進した円安による押し上げ効果から、円ベース・リターンでは、株式市場の下落幅は限定的となりました。

(為替市況)

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。



ポートフォリオ

当ファンドの設定以来の基準価額は、株式市場全般が下落し、特にグロース銘柄に大きな打撃が及ぶなか、下落しました。

上位保有銘柄の1つであるユニティ・ソフトウェア（ソフトウェア・サービス）が、大きくマイナスに影響しました。同社は、携帯電話、タブレット、PC、コンソール、拡張版およびバーチャルリアリティ（仮想現実）デバイス向けに、2Dおよび3Dコンテンツをリアルタイムで作成、実行し、収益化するためのソフトウェアソリューションを開発しており、様々な産業向けに運用するプラットフォームを展開しています。

期間中、当ファンドではボラティリティ（変動性）が高まった局面で、Fastly（ソフトウェア・サービス）の保有を解消し、確信度の最も高い銘柄群の積み増しを行ないました。また、下記の銘柄を新たに組み入れました。

クラウドサービスにより様々なコミュニケーション製品を提供するトゥイリオ（ソフトウェア・サービス）は、API（アプリケーションプログラミングインターフェイス）の使い勝手がよく、コンピュータプログラムによる音声通話やテキストメッセージ送信を容易に実現できます。当ファンドでは、IP通信およびプログラマティック・コミュニケーション（データに基づいてターゲットとなる潜在顧客層などにリアルタイムでアプローチする技術）の分野において、圧倒的に他社をリードしていると考えています。コミュニケーションはメタバース体験の重要な面になるとみられることから、メタバースでのコミュニケーションを支えていく存在となっています。

ドラフトキングス（消費者サービス）は、米国やカナダでプロスポーツ関連の消費者向けエンターテインメントのデジタル化においてリードしており、消費者向けエンターテインメントのオフラインからオンラインへの移行を促進しているとみています。

クラウド上での利用を前提とした企業のエンドポイント・セキュリティ（ネットワークに接続されている末端の機器をサイバー攻撃から守るためのセキュリティ対策）を提供するリーディング企業のクラウドストライク・ホールディングス（ソフトウェア・サービス）については、サイバーセキュリティ投資が引き続き堅調であることから、当ファンドでは今後も市場シェアを獲得していくと考えています。加えて、プラットフォームの再編の動向も追い風になると考えています。

MYNARIC AGNAMENS AKTIEN 0 N（資本財）については、市場全体のボラティリティや、当ファンドによる今後5年の年平均成長率予想と比較した足元の株価動向を勘案して組み入れました。

○今後の運用方針

メタバースとは、高い双方向性を持ったオンライン体験を世界中の人々に提供するための、新しいテクノロジーの集合体であると考えています。AR（拡張現実）、VR（仮想現実）、Web3.0、次世代ハードウェアといった単一の技術ではなく、これらの技術が融合することによって実現される次世代のインターネットこそがメタバースであり、これが新たな消費者向けのオンライン体験の波を作り出ししていくと考えています。

人々がより多くの時間をオンライン上で過ごすようになるにしたがって、オフラインでの消費は今後10年以内に頭打ちとなる可能性があると考えています。AR／VRや次世代のハードウェア、インフラによる没入型の体験、そしてブロックチェーンによるデジタルオーナーシップ（デジタル上の所有権）の実現により、消費者はデジタル資産の価値を徐々に評価するようになり、最終的には現実の資産と同等以上とみなすようになると考えています。当ファンドでは、オンライン消費額が2030年までに12兆アメリカドル超にまで拡大する可能性があると考えています。

メタバースは決して短期的な投資アイデアではありません。現在、メタバースは初期段階にあり、関連技術のイノベーションが進み始めたところですが、初期の活用事例はデジタル・エンターテインメントを中心に展開されると考えています。そして時間の経過とともに規制や法律がデジタルオーナーシップに追いつき、バーチャル世界の領域が、デジタルツイン（仮想空間に現実空間と同じ環境を再現する技術）、AI（人工知能）／機械学習やシミュレーション、労働のトレーニングと能力開発などに応用され、ビジネスでの活用事例が拡大するとみられます。

主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されている、メタバースに関連するビジネスを行なう企業の株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年 3 月 31 日～2023年 1 月 20 日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 6 (6)	% 0.081 (0.081)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	2 (2)	0.026 (0.026)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用)	5 (5)	0.064 (0.064)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の 送金・資産の移転等に要する費用
合 計	13	0.171	
期中の平均基準価額は、7,971円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は 1 万口当たりのそれぞれの費用金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第 3 位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2022年3月31日～2023年1月20日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株	千円	千株	千円
		143 (16)	641,797 (-)	37	152,059
外 国	アメリカ	百株 10,267 (247)	千アメリカドル 45,879 (-)	百株 2,860	千アメリカドル 8,135
	ユーロ		千ユーロ		千ユーロ
	ドイツ	71 (35)	781 (120)	0.76 (35)	10 (120)
	フランス	242	1,482	57	279
	香港	657 (12)	千香港ドル 15,034 (238)	230 (-)	千香港ドル 5,234 (238)

(注) 金額は受け渡し代金。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2022年3月31日～2023年1月20日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	8,655,241千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	4,226,769千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	2.04

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2022年3月31日～2023年1月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況（2022年3月31日～2023年1月20日）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○組入資産の明細

(2023年1月20日現在)

国内株式

銘柄	株数	当期	
		株数	評価額
		千株	千円
機械 (10.6%)			
セガサミーホールディングス	26.2		52,190
電気機器 (14.6%)			
ソニーグループ	6.3		72,009
その他製品 (20.1%)			
任天堂	18		99,180
情報・通信業 (54.7%)			
ネクソン	37.3		109,624
スクウェア・エニックス・ホールディングス	10.7		65,056
カプコン	23.5		95,175
合計		122	493,235
	株数・金額		
	銘柄数 < 比率 >	6	< 11.7% >

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

外国株式

銘柄	当 期 末			業 種 等
	株 数	評 価 額		
		外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	千アメリカドル	千円	
CLOUDFLARE INC-CLASS A	153	657	84,576	ソフトウェア・サービス
ENDEAVOR GROUP HOLD-CLASS A	288	595	76,623	メディア・娯楽
NIKE INC -CL B	89	1,116	143,709	耐久消費財・アパレル
PURE STORAGE INC - CLASS A	217	564	72,600	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
ROBLOX CORP -CLASS A	649	2,168	279,108	メディア・娯楽
SEA LTD-ADR	31	192	24,735	メディア・娯楽
SHOPIFY INC - CLASS A	326	1,241	159,785	ソフトウェア・サービス
SNAP INC - A	956	920	118,473	メディア・娯楽
TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	119	1,056	136,012	半導体・半導体製造装置
THE WALT DISNEY CO.	42	424	54,581	メディア・娯楽
TWILIO INC - A	164	857	110,384	ソフトウェア・サービス
UNITY SOFTWARE INC	716	2,069	266,372	ソフトウェア・サービス
ADOBE INC	32	1,120	144,252	ソフトウェア・サービス
ADVANCED MICRO DEVICES	132	900	115,874	半導体・半導体製造装置
AKAMAI TECHNOLOGIES INC	47	408	52,559	ソフトウェア・サービス
AMAZON.COM INC	46	431	55,573	小売
APPLE INC	58	792	101,956	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
AUTODESK INC	35	693	89,301	ソフトウェア・サービス
COINBASE GLOBAL INC -CLASS A	322	1,595	205,410	各種金融
CROWDSTRIKE HOLDINGS INC - A	34	341	44,017	ソフトウェア・サービス
META PLATFORMS INC-CLASS A	58	790	101,778	メディア・娯楽
IMMERSTON CORPORATION	961	695	89,554	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
MICROSOFT CORP	31	729	93,943	ソフトウェア・サービス
NETFLIX INC	41	1,316	169,485	メディア・娯楽
DRAFTKINGS INC-CL A	267	358	46,199	消費者サービス
NVIDIA CORP	101	1,706	219,601	半導体・半導体製造装置
OKTA INC	17	119	15,329	ソフトウェア・サービス
QUALCOMM INC	60	711	91,634	半導体・半導体製造装置
TAKE-TWO INTERACTIVE SOFTWARE	77	789	101,636	メディア・娯楽
VUZIX CORP	1,571	750	96,659	耐久消費財・アパレル
小 計	株 数 ・ 金 額 銘柄 数 < 比 率 >	7,653 30	26,118 —	3,361,733 <79.4%>
(ユーロ…ドイツ)			千ユーロ	
ADIDAS AG	32	472	65,810	耐久消費財・アパレル
MYNARIC AGNAMENS AKTIEN O N	38	65	9,121	資本財
小 計	株 数 ・ 金 額 銘柄 数 < 比 率 >	70 2	537 —	74,932 <1.8%>
(ユーロ…フランス)				
KERING	11	626	87,383	耐久消費財・アパレル
UBISOFT ENTERTAINMENT	172	331	46,210	メディア・娯楽
小 計	株 数 ・ 金 額 銘柄 数 < 比 率 >	184 2	958 —	133,593 <3.2%>
ユ ー ロ 計	株 数 ・ 金 額 銘柄 数 < 比 率 >	255 4	1,496 —	208,525 <4.9%>
(香港)			千香港ドル	
MEITUAN-CLASS B(N)	12	205	3,369	小売
NETEASE INC	299	4,126	67,793	メディア・娯楽

銘	柄	当 期 末		業 種 等	
		株 数	評 価 額		
			外貨建金額		邦貨換算金額
(香港)		百株	千香港ドル	千円	
TENCENT HOLDINGS LTD		128	4,899	80,504	メディア・娯楽
小 計	株 数 ・ 金 額	439	9,231	151,666	
	銘 柄 数 < 比 率 >	3	—	<3.6%>	
合 計	株 数 ・ 金 額	8,348	—	3,721,925	
	銘 柄 数 < 比 率 >	37	—	<87.9%>	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2023年1月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 4,215,161	% 99.2
コール・ローン等、その他	34,107	0.8
投資信託財産総額	4,249,268	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) 当期末における外貨建純資産(3,751,670千円)の投資信託財産総額(4,249,268千円)に対する比率は88.3%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1アメリカドル=128.71円、1ユーロ=139.37円、1香港ドル=16.43円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年1月20日現在)

項 目	当 期 末	円
(A) 資産	4,249,268,081	
コール・ローン等	22,484,809	
株式(評価額)	4,215,161,109	
未収入金	9,988,441	
未収配当金	1,633,722	
(B) 負債	16,144,036	
未払解約金	16,144,035	
未払利息	1	
(C) 純資産総額(A-B)	4,233,124,045	
元本	6,040,760,531	
次期繰越損益金	△1,807,636,486	
(D) 受益権総口数	6,040,760,531口	
1万口当たり基準価額(C/D)	7,008円	

(注) 当ファンドの設定時元本額は3,149,125,005円、期中追加設定元本額は3,240,519,259円、期中一部解約元本額は348,883,733円です。

(注) 2023年1月20日現在の元本の内訳は以下の通りです。
・グローバル・メタバース株式ファンド 6,040,760,531円

(注) 1口当たり純資産額は0.7008円です。

(注) 2023年1月20日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は1,807,636,486円です。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上処理しています。

○お知らせ

約款変更について

2022年3月31日から2023年1月20日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

○損益の状況 (2022年3月31日～2023年1月20日)

項 目	当 期	円
(A) 配当等収益	13,502,217	
受取配当金	13,504,823	
受取利息	5	
その他収益金	835	
支払利息	△ 3,446	
(B) 有価証券売買損益	△1,441,978,202	
売買益	271,608,925	
売買損	△1,713,587,127	
(C) 保管費用等	△ 2,482,245	
(D) 当期損益金(A+B+C)	△1,430,958,230	
(E) 追加信託差損益金	△ 449,325,983	
(F) 解約差損益金	72,647,727	
(G) 計(D+E+F)	△1,807,636,486	
次期繰越損益金(G)	△1,807,636,486	

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。